新春のごあいさつ

雲南消防本部
消防長　佐藤　均

平成24年の輝かしい新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

地域住民の皆様をはじめ、関係機関の皆様には、平素より消防行政の推進につきまして、格別なるご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、3月11日には観測史上最大となる東日本大震災が発生し、津波による被害、特に福島原発事故などにより未曽有の大惨事となり、あらゆる方面で復興に向けての取組が懸命になされているところです。

この震災に際し、雲南消防本部からも延べ14名の職員を緊急消防援助隊として宮城県に派遣しましたが、防災の任を職務とする私どもも言葉を失うほどの凄惨な現場を目の当たりにし、あらためて自然災害の脅威を痛感したところです。

また、9月には相次いで発生した台風により、一時期100万人を超える住民に対して避難指示・避難勧告が発令され、近畿地方を中心に甚大な被害が発生しました。

こうした地震や台風により犠牲となられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された多くの方々にお見舞い申し上げ、早期の復興を心より願うところであります。

昨年は、大災害を教訓とし災害対応機関はもとより多方面において防災に対する認識を再検討する契機の年となりました。

雲南管内の昨年の出動状況につきましては、火災出動が32件、救急出場が2，252件、救助出動が53件であり、火災については11月下旬から年末にかけて建物火災が頻発し、前年比で13件増加し、救急出場においても過去最高の出場件数となりました。

また、6月から島根県においてドクターヘリの運用が開始され、運航件数が雲南管内への出動が県下で最多となり、増加する救急需要への体制強化に今後ますます力を発揮するものと期待するところです。

雲南消防本部におきましても、4月1日より雲南広域連合としてすが、新たにスタートしたところです、高速道路網の整備、少子高齢化など変化する管内の環境に的確に対応すべく、職員一丸となり一層の地域防災の充実強化に努める所存であります。

結びに、本年が災害のない明るい年となりますとともに、皆様のご健勝とご多幸を御祈念申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

住宅用火災警報器の設置状況

雲南防火委員会（会長　佐藤消防長）では、住宅用火災警報器の設置状況調査のため管内の1，000世帯にアンケート用紙を送付し、皆様の協力のもとに600世帯から回答をいただきました。

その結果は以下のとおりです。

調査結果

すべての寝室と階段室に、住宅用火災警報器を設置している・・・74.5%
一部の寝室と階段室に、住宅用火災警報器を設置している・・・・19.3%
全く設置していない ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6.2%

（平成23年11月調査）

昨年は管内において住宅火災が7件発生し、その内住宅用火災警報器が設置されていた住宅はわずかに1件でした。とても残念な結果ですが設置されていない住宅で火災が多発しました。

管内から住宅火災がなくなるよう防火意識を高め、住宅用火災警報器をまだ設置されていないご家庭はすぐに設置しましょう。

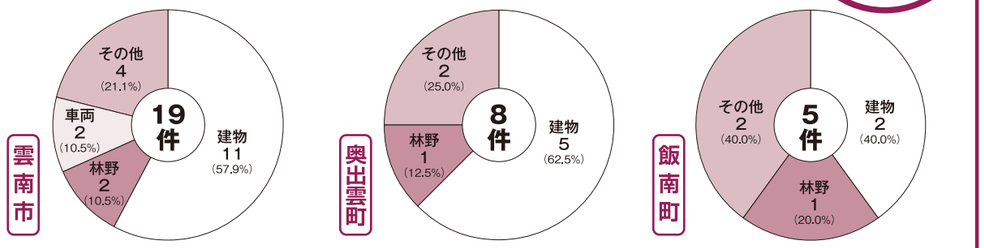
住宅用火災警報器は義務設置です!!

春の火災予防運動3月1日～7日

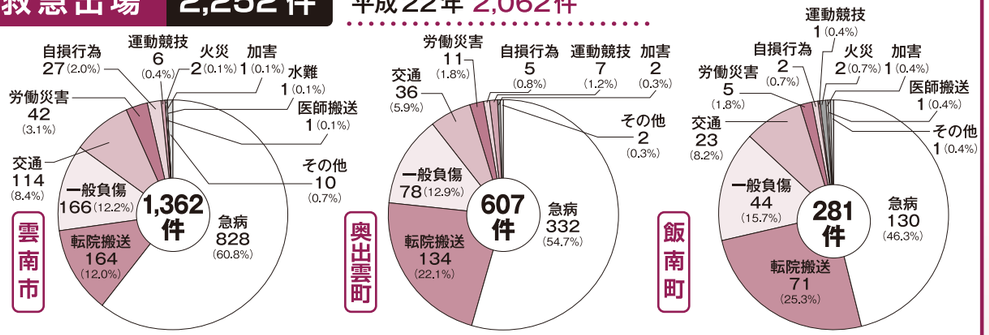
平成23年中の火災・救急・救助統計

出動件数
平成23年1月1日～12月31日

火災出動　32件　平成22年 19件

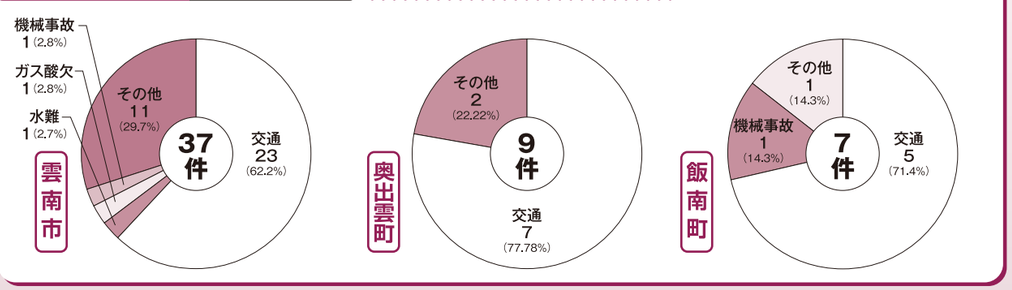


救急出場　2,252件　平成22年 2,062件



※他2件は県内交通事故1件、県外労働災害1件

救助出動　53件　平成22年 56件



平成23年中の火災件数は32件発生し、平成22年と比較すると13件増加となりました。その原因の中で、たき火、枯れ草焼き、ゴミ焼きが10件を占めており、屋外におけるちょっとした不注意や油断から火災となっています。火を取り扱うときは、その場を離れない、消火器具を準備するなど基本的なことを忘れないようにしましょう。

救急件数については2，252件で過去最高の件数でした。今年度から運航が開始されたドクターヘリの搬送件数は、県内で338件搬送されており、その内当管内においては89件と最も多く搬送されています。また、ドクターヘリ要請時の地上支援のため、指揮隊も97件出動しています。

救助件数については、平成22年と比較すると3件減少しました。

「消したはず 決めつけないで もう一度」